



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4601S		
科目名	ゼミナール I		
担当教員	山下 博之		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 3		
講義室	1302	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕 D P 1－H 〔論理的思考力・批判的思考力〕 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕 D P 4－I 〔理解力・分析力〕 D P 6－K 〔表現力・対話力〕 D P 7－L 〔協働力・牽引力〕 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（10%） H 2 批判的思考（10%） F 1 探求と論拠（20%） I 1 理解・分析と読解（15%） I 3 情報分析（15%） K 1 ライティング・コミュニケーション（10%） K 2 オーラル・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（10%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、国、地方自治体の防災政策及び消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。また、2019年度以降は栃木県中小企業団体中央会による「災害時応援協定締結支援事業」（栃木県委託事業）の講師・アドバイザー役として、各種中小企業の災害時応援協定及びBCPの取り組みを支援しています。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。 ここでは問題意識を確立し、卒論につながる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識を獲得します。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		

	■ キーワード 防災・減災、政策リサーチ、リサーチクエストと仮説、資料・データ、共同研究
授業の趣旨	■ 副題 「災害」や「防災・減災」を通じて社会問題について考え、またそれを解決する方法や解決の手がかりまたは問題そのものに対し客観的、論理的に迫っていく力を養います。 ■ 授業の目的 本ゼミの目的は次の4つの点です。 ・災害に対する国、自治体、企業、地域、個人の取り組み、あるいは災害現象そのものに関する理解を深めること。 ・災害や防災・減災政策の研究を通じてわが国の（あるいはグローバルな）政治・社会・経済、文化を学ぶこと。 ・「研究」に関する基本的な方法論やルールを学び、学んだことを卒業論文で実践すること。 ・研究及び研究以外のあらゆるゼミ活動を通じて、就職活動や就職後に必要なスキルを鍛錬すること。 ■ 授業のポイント 国、自治体などの行政機関、企業組織や地域住民など災害対策を検討、あるいは実践する組織や集団について学び、研究することは、災害対策そのものや災害現象について直接的に学び、研究するのと同様に重要なことです。本授業では「災害」や「防災・減災」について学び、研究しながら、「災害」や「災害対策」の背景にある社会問題について考え、またそれを解決する方法や解決の手がかりまたは問題そのものに対し客観的、論理的に迫っていく力を養います。
総合到達目標	■ 旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・テーマ設定から研究成果の発表に至るまでの研究プロセスを説明することができる（第2回～第4回）。 ・防災上の問題について考察し、自らの意見を記述することができる（第5回～第7回） ・自らの問題意識を研究の問いとして説明することができる（第8回・第9回）。 ・研究の問いに対する仮説を提示することができる（第8回・第9回）。 ・仮説の検証方法を自ら検討し、提示することができる（第10回～第13回）。 ・提示した方法に従って自ら仮説を検証することができる（第14回～第15回）。 ■ 授業を通じて他者とコミュニケーションをとることができる。 ・文献を要約し発表するためのレジュメを作成することができる（第2回～第4回） ・基本的な文章執筆のルールに従いレポートを作成することができる（第5回～第7回） ・読みやすさ、見やすさを意識しながら発表用の資料を作成することができる（第2回～第4回） ・発表の際、聞き手の反応を意識しながら発表することができる（第2回～第15回） ・発表に対する自分なりの意見や質問を述べるることができる（第2回～第15回）。
成績評価方法	■ レジュメの作成・報告 4回（30%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられたレジュメ・パワポかどうか、分かりやすいレジュメ・パワポかどうか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、ポイントを押さえられているかどうか、レジュメ・パワポ内容または口頭による説明の分かりやすさ等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ ミニ・レポートの作成・提出 2回（35%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）自ら設定した問いの適切さ、レポート内で展開する議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ 授業参加度 15回（35%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1 （評価の観点）上記のレジュメ・パワポ・レポート等の報告者が行った報告について自分なりに考察し、意見及び疑問を提示しているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）その都度、評価しアドバイスします。
履修条件	特になし
履修上の注意点	・報告や議論に積極的に参加してください。 ・無断欠席は厳禁。欠席する場合は、教員に直接連絡をすること。 ・フリーライド（ただ乗り）は認めません。ゼミ活動への積極的な貢献が望まれます。

授業内容	回 内容
	① 授業テーマ ガイダンス ② 授業概要 ・本演習の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明する（E1）。 ・本演習の受講生が本演習の全体像を把握し、自ら授業の準備を行えるようにする。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（60分） 本演習についてシラバスを通読しておく。 ④ 復習（180分） シラバスをもとに、本演習についての自分の学習計画を立てる。
	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（1）－ 政策研究の意義・プロセスとリサーチクエストン－ ② 授業概要 ・防災・減災政策等の国や自治体等の実施している政策の研究方法を学ぶ意義を理解し、説明できるようにする（E1） ・「リサーチクエストン」の意味と重要性を理解し、自らの研究のリサーチクエストンを設定できるようにする（H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.1-p.32を読んでおく※ ※担当者を指定し、上記テキスト第1章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.1-p.32を再読しながら、配布されたレジメを補足する。
	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（2）－ 仮説－ ② 授業概要 ・「仮説」の意味と重要性、仮説の立て方を理解した上で、自らの研究の仮説を設定できるようにする（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.33-p.96を読んでおく※ ※担当者を指定し、上記テキスト第2章及び第3章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.33-p.96を再読しながら、配布されたレジメを補足する。 ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.192-p.202の演習例1を読む。
	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（3）－ 資料・データ収集－ ② 授業概要。 ・資料・データ収集の意味と収集方法を理解し、自らの研究に関わる資料・データ収集を行えるようにする（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.33-p.96を読んでおく※ ※担当者を指定し、上記テキスト第2章及び第3章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.33-p.96を再読しながら、配布されたレジメを補足する。 ・テキスト『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』p.192-p.202の演習例1を読む。

5	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（4） — 仮説の検証 — ② 授業概要 ・仮説の検証方法を理解した上で、自らの研究の仮説を検証することができるようにする（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』 p.97-p.158を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキスト第4章及び第5章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』 p.97-p.158を再読しながら、配布されたレジメを補足する。
6	① 授業テーマ 政策研究の基礎を学ぶ（5） — 研究結果のまとめ方 — ② 授業概要 ・研究で得られた知見をレポートや論文にまとめ、あるいはPPT等を使って口頭で発表できるようにする（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』 p.97-p.158を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキスト第4章及び第5章のレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』 p.97-p.158を再読しながら、配布されたレジメを補足する。 ・テキスト『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』 p.203-p.220の演習例2及び演習例3を読む。
7	① 授業テーマ 調査方法を学ぶ（1） — 調査方法の対象と方法 — ② 授業概要 ・データ及び調査の種類と方法について説明できるようになる（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・質的調査の特徴や扱うデータ、方法について説明できるようになる（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『社会調査の基礎』 p.46-p. 8 3を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキストのレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『社会調査の基礎』 p.46-p. 8 3を再読しながら、配布されたレジメを補足する。
8	① 授業テーマ 調査方法を学ぶ（2） — インタビュー調査、参与観察とフィールドワーク — ② 授業概要 ・インタビュー調査の特徴や方法、注意点について説明できるようになる（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・参与観察及びフィールドワークの特徴や方法、注意点について説明できるようになる（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） ・テキスト『社会調査の基礎』 p. 8 4-p. 1 0 8を読んでおく※。 ※担当者を指定し、上記テキストのレジメを作成してもらう。 ④ 復習（120分） ・テキスト『社会調査の基礎』 p. 8 4-p. 1 0 8を再読しながら、配布されたレジメを補足する。
9	① 授業テーマ 調査方法を学ぶ（3） — フィールドワークの実践 — ② 授業概要 ・第10回授業を踏まえ、実際にフィールドワークを実施する（世田谷区内の予定）。

	・フィールドワークの特徴や方法、注意点について説明できるようになる（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・授業テーマを踏まえた演習を行います。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（60分） ・テキスト『社会調査の基礎』p.96-p.108を再読する。 ・担当教員の配布した調査計画書を熟読する。 ④ 復習（180分） ・フィールドワーク中に収集した画像記録、音声記録を整理する。 ・画像記録と音声記録をもとに調査報告書を作成する。
10	① 授業テーマ 調査計画書の作成（1） ② 授業概要 ・防災上の課題について都内の特定の地域をフィールドとして調査を行うための計画書を作成する（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・グループ分けを行い、グループメンバーの興味・関心のある防災課題を集約し、調査テーマを検討します。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） 自ら興味・関心のある防災上の課題を調べておく。 ④ 復習（120分） グループで調査する調査テーマについての文献調査を行う。
11	① 授業テーマ 調査計画書の作成（2） ② 授業概要 ・防災上の課題について都内の特定の地域をフィールドとして調査を行うための計画書を作成する（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・第11回授業で設定した調査テーマに関する調査を実施するフィールドについて、グループごとに検討します。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） グループの調査テーマについて調査するのに適した地域について調べておく。 ④ 復習（120分） グループで調査するフィールドについてのWeb調査を行う。
12	① 授業テーマ 調査計画書の作成（3） ② 授業概要 ・防災上の課題について都内の特定の地域をフィールドとして調査を行うための計画書を作成する（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・第11回で設定した調査テーマに関して実施する調査について、調査の目的と背景、具体的な調査項目、スケジュールを計画書にまとめ、発表する。 ・実務経験を踏まえながら説明をします。 ③ 予習（120分） 調査計画書（案）を作成する。 ④ 復習（360分） ・発表で指摘されたことを調査計画書に反映し、調査計画書を修正する。 ・調査計画書に基づいて調査を実施する。
13	① 授業テーマ 実地調査 ② 授業概要 ・調査計画書に基づいて実地調査を行う（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら調査をフォローします。 ③ 予習（120分） ・調査計画書を完成させ、内容を熟読する。 ・調査に必要な物品等をあらかじめ準備しておく（ノート、筆記用具、カメラ等） ④ 復習（180分） ・フィールドワーク中に作成したメモ及び収集した画像記録、音声記録を整理する。 ・メモ、画像記録と音声記録をもとに調査報告書を作成する。
14	① 授業テーマ 調査結果の報告（1） ② 授業概要 ・実地調査の結果をパワーポイントにまとめ、調査結果についての報告を行う（E1、H2、F1、I1、I3）。

	・実務経験を踏まえながら発表をフォローします。 ③ 予習（120分） 実地調査の結果を報告するためのパワーポイントを作成する。 ④ 復習（180分） 発表で指摘されたことについて再調査を行う。
15	① 授業テーマ 調査結果の報告（2） ② 授業概要 ・実地調査の結果をパワーポイントにまとめ、調査結果についての報告を行う（E1、H2、F1、I1、I3）。 ・実務経験を踏まえながら発表をフォローします。 ③ 予習（120分） 実地調査の結果を報告するためのパワーポイントを作成する。 ④ 復習（180分） 発表で指摘されたことについて再調査を行う。 研究の経過や結果について教員や他の履修者から受けた指摘を踏まえ、自分の研究をレポートにまとめる。
関連科目	■基礎教育科目 自主創造の基礎（RMGT1218）、アカデミック・スキルズ（RMGT1219） ■演習・ゼミナール等 ゼミナールⅠ～Ⅴ（RMGT4601S・RMGT4602S・RMGT4603S・RMGT4604S・RRMGT4605S） ■総合科目 政治学1（RMGT1139）、政治学2（RMGT1140）、社会学1（RMGT1133）、社会学2（RMGT1134）、経済学1（RMGT1137）、経済学2（RMGT1138） ■専門基幹科目 行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、地方自治と法（RMGT2361）、行政学（RMGT2381S） ■専門展開科目（災害マネジメント領域） 災害と法（RMGT3401）、災害対策論（RMGT3501）、災害情報論（RMGT3502）、自然災害論（RMGT3503）、大規模事故論（RMGT3504）、地域防災論（RMGT3505）、災害史（RMGT3506）
教科書	■伊藤 修一郎、2011年『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会。 ■北川由紀彦・山口恵子、2019年『社会調査の基礎』一般財団法人 放送大学教育振興会。
参考書・参考URL	■荻谷 剛彦、2002年『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。 ■久米 郁男、2013年『原因を推論する -- 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

